

No.	6	高砂 朋子
質問事項	2	高齢者福祉の充実について
<p>厚労省は、国立社会保障・人口問題研究所の日本の将来推計人口の結果から、今後、年間の死亡数は増加傾向にあり、最も年間死亡数の多いのが2040年で推計1,669,000人としています。このような状態を「多死社会の到来」と表しています。</p> <p>今時点での人口比からの単純な計算ですが、市内で毎日4.5人前後の方が亡くなられる推計になり、終末期ケアの需要が急増し、医療機関や火葬場等の不足は明らかであり深刻な状態となります。そこで2点伺います。</p> <p>(1) マイエンディングノートの活用による自らの人生の終わりに向けた活動「終活」への支援について</p> <p>防府市が発行しているこのノートには、健康状態やかかりつけ医、判断能力が低下したときをお願いする人、葬儀、お墓、遺言書、家系図のこと等のほか、これからやりたいこと、行きたい場所など思いつくまま書き込めるようになっています。このノートを活用し、終活に対する意識向上のための取組みを積極的に行って頂きたいと思いますがいかがでしょうか。本市のご所見を伺います。</p> <p>(2) 独居高齢者の亡き後の不安を解消するための取組みの必要性和「エンディングプランサポート事業」について</p> <p>過日の研修で学んで来ました横須賀市の「エンディングプランサポート事業」は、独居高齢者で頼れる身寄りが無く、経済的に大変な方を対象に、葬儀、納骨、死亡届人、終末期医療における事前指示書（リビングウィルと言います）等の終活課題について相談やその解決に向けた連携・支援を行う事業であり、予め解決を図ることで生き生きとした人生を送っていただくことを目指しておられます。独居高齢者については、ケアにかかわる関係者が、人生や価値観について情報収集を行い、意思決定能力があるうちに支援を行う必要があるとされています。防府市においても独居高齢者の亡き後の不安を解消するための取組みが必要ではないかと思いますがいかがでしょうか。「エンディングサポートプラン事業」について本市のご所見を伺います。</p>		